

水ビジネスの 新潮流

3

巨大な水ビジネス市場に世界的な大企業が参入している。彼らに共通することは、アジアで最も情報の集まるシンガポールに開発拠点を構えていることだ。シンガポール政府は、国策としてウォーターハブ(研究開発・ビジネス拠点)を彼らに提供している。シーメンス、GE、IBMは、シンガポールからアジア戦略を展開している。

シーメンス——新技術志向

ドイツのコングロマリット企業であるシーメンスは、急成長するアジアの水処理市場に注目し、07年シンガポールにアジア太平洋地域本部の水処理開発センターを設立、ここから中国市場に乗り出している。

もともとシーメンスは、中国における交通システムや通信、発電・送電システムに強かったが、水ビジネスでは大きな進展はなかった。そこで北京のCNCウォーターテクノロジーを買収し、本格的に中国市場に乗り出した。CNCは中国国内で大型の水処理や海水淡水化に実績を持つ中堅企業である。最近では昨年8月、中国最大の

膜処理式浄水場(日量15万t)を無錫市より獲得している。シーメンスの水処理部門のCEO、ロジャー・ラドック氏は「15%の成長を遂げる中国市場は、シーメンスにとり、今後発展する新しいプラットフォームとなるだろう」位置付けている。

シーメンスは水メジャーとは異なった戦略をとっており、ドイツらしく特徴ある技術を獲得し、その上で独特な水ビジネス

構築を目指している。オーストリアのVAテクノロジー(水部門)、スペインのモノセップ(石油・ガス向け水処理会社)およびイタリアのセルナジオット(汚泥処理、排水処理専門会社)などを買収して、水ビジネス戦列に加えている。また米国向けでは、フロリダのデイスニールドから10年間の水管理包括契約(場内165カ所の水管理)を締結したこ

とが話題を呼んでいる(今年3月)。

GE——豊富な資金の活用

GEウォーター&プロセステクノロジーは、100億円以上を投じ、シンガポールにグローバル開発センターを設立している。中国市場向けには、得意な電力インフラに加えて膜を使った水の高

度処理、すなわち海水淡水化、再利用水ビジネスに力を入れている。

覚書締結の調印式に臨んだ会長兼CEOのジェフリー・イメルト氏は「GEは発展する中国に

対し、GEのコンセプト、エコマシネーションに基づいて最大限の投資をする」と明言している。事実、08年の北京オリンピックでもGEは大きな存在感を示した。GEは開会式の開かれた国家体育場に2種類の水再生処理技術を提供したほか、北京東方にある唐山市南堡汚水処理場に逆浸透膜技術を提供。この汚水処理場では日量9万3千立方メートルの水を浄化している。豊富な資金を有するGEは、さらに大

一とバックエンドソフトのシステム設計・導入を手掛けるという。

ニューンス氏は、世界中が「水の管理統合システム」に力を入れている。しかし、水データの供給は限られている。そのため、的確な水資源管理ができていない。IBMは総力をあげて水データの収集と整理、さらに得られたデータを可視化し、世界の水資源管理を支援する話す。

IBMはこの新事業を通じて、水資源管理のためのIT市場が5年以内に200億ドル(約2兆円)規模に成長する可能性があるが予想しているという。

グローバル巨大企業の戦略 シンガポール拠点に アジアを攻略

また中国ととの結び付きを強化するために06年5月、「エネルギーと環境保護に関する覚書」を締結した。そこでGEは、約50億円を投じて中国技術者2500人の教育・トレーニングを行う。もちろん水処理はその核となる項目である。

規模な海水淡水化や排水の再利用プロジェクトに傾注している。

IBM——水ビジネス事業に乗り出したIT企業の王者

IBMが水資源の管理を支援する水ビジネス事業に乗り出した。プロジェクト

「究極の水の管理は情報の管理である」と、こう唱えるIBMのグローバルな水戦略に、世界中が注目している。なぜなら水を制することは、食糧やエネルギーを抑え、世界を制することになるからである。10年後にはIBMが世界最大の水ビジネスを手に入れる可能性も出てきている。

グローバルウォーター・ジャパン
代表

吉村 和就



シンガポールで昨年開催された第2回国際水週間「水エキスポ」の様子。28カ国から420社が出展、1万名以上が来場した(提供・日本水フォーラム)

エクト責
任者シャ
ロン・ニ
ューンズ
氏によれ
ば、水源
地、配水
管、貯水
設備、河
川、港湾
を監視す
るデジタ
ルセンサ
(40000個)が、世界最大の水ビジネスを手に入れる可能性も出てきている。